



新見市男女共同参画情報紙

りぼん

vol.11
2011.2

職場を担う輝き人紹介!

女性消防士
の道を



味のある
指導員に



自分が好きな
ことを仕事に



キーワードは 「自分らしく働く」

今回のりぼん第11号の特集では、男性が多い職場で活躍している女性、女性が多い職場で活躍している男性に「自分らしい働き方」などについてインタビューを行いました。

仕事への夢を持つこと。職業人として目標を持つこと。そして自分を持つこと。

職場から地域へ。理解と協力。「和」から生まれる共同参画の輪





新見消防署 消防士補
あしだ なおこ
芦田尚子さん

今の職業を選んだ動機は？

最初に消防士になりたいと思い始めたのは高校2年の夏です。

私は津山市出身で高校が消防署の近くにあり、登下校時に訓練などをほぼ毎日見ていたので憧れていました。

消防士になることについて 家族や友だちの反応は？

両親は「自分の好きな道に行きなさい」という感じでした。

友だちは体力面でできつい仕事だというイメージがあるのか「私はやりたくない」という感じでした。

今の職業以外にも選択肢は？

私は消防士以外考えられなかったのですが、新見市消防本部に採用されてよかったと思います。新見はとつてもあたたかい雰囲気です。それと県内で働き

たかったこともあり、夢が叶ってよかったです。

今の仕事をついていて よかったです、困ったことは？

私は現在予防課に配属されていて、広報活動の中で消火器の取扱方法なども指導していますが、そういったときに「ありがとう」と感謝されるのが一番うれしいです。そんなときはこの職でよかったなと思います。

困ったことは、今は救急や火災などの現場勤務ではないのですが、市民の人から「現場には出ないの？」と聞かれることがあり、どう答えたらいいのか悩むことがあります。

今の職場で自分が入ったことにより 改善されたことは？

私が新見消防署に入ったことで女性用トイレや更衣室ができました。それから職場が和やかになったと言われました。

岡山県下で現場に携わっている 女性消防士は？

岡山市は多いです。火災などの現場出勤件数も多いですし、女性消防士の現場に対する意識が高いです。女性消防士同士の交流があり、現場

の情報や結婚・出産後の仕事への対応などの情報交換をします。
(県下の女性消防士は31人)

これからの目標は？

まさか消防署に女性が入ってくるとは思わなかったといろいろな人に言われましたが、救急の現場などでは女性だからこそできることや、女性消防士が出動する場合の方が適切であることもあるので、24時間勤務の必要性は常々感じています。だから、後に続く

女性消防士の道を作っていきたいと思っています。

また、救急隊員の中でもより専門的な治療が可能な救急救命士資格も目標に考えています。

自分らしく働く工夫は？

まだまだ新人なのですが、先輩消防士の優れた点をどんどん吸収しながら、地域、市民の人のご意見もよく聴いて、その上で自分の考えを持って仕事をすることだと思っています。



救急の日のイベントでパンフレットを配る芦田さん(左端)





新見自動車教習所 指導員
まじまゆか
真島由加さん

今の職業を選んだ動機は？

最初はするつもりはなかったのですが、先輩指導員に勧められ根負けしました。当時の新見では女性指導員は珍しかったです。

(現在は指導員15人中2人が女性。)

教習所の生徒の中で女性指導員について驚かれるような方は？

最近では年齢も年齢なので生徒さんからは厳しい指導員という目で見られます。「こわい」「いつ怒られるのだろう」とみたいな(笑)。女性だからといって驚かれることはないです。

今の職業以外に選択肢は？ また、もし生まれ変わったとしたら今の職業を選ぶ？

他の選択肢というか、もともと教習所で働いていて先輩指導員に勧められましたので。勉強不足などで涙したこともあったのですが、自分で決めたことなので最後までがんばりました。指導員歴も長くなったので他の仕事もやってみたい気はします。長く勤務してきたからこそ、他の仕事にも興味があります。

男性の先輩指導員に聞きにくかったことや、相談相手がいなかったことは？

それはなかったですが、やはり力仕事が大変でした。タイヤ交換やオイル交換などの整備業務も自分の仕事です。頼めばやってくれると思いますが、それは男性指導員の仕事だとは思わなかったです。

これからの目標は？

そうですね、授業などの計画はもう既にきっちり決まっていますので、それを日々確実にこなして優良なドライバードライバーとして交通社会に出て行ってもらうためには、相手がよく理解できるように教えることが大切です。同じこ

自分らしく働く工夫は？

とても相手が違えば言い方など指導方法も変えて行かなくてはいけないので、より多く指導方法の引き出しを作っていきたいと思います。

仕事をするにはまず体が第一です。で、体と心の両方の健康を保ちながら、味のある指導員を目指していきたいです。私の場合は指導員歴も長いので先輩指導員だけではなく後輩からも意見をどんどん聴くことも大切だと感じています。それから、決まりきった考えにとらわれないことですね。



新見自動車教習所での真島さんの様子





新見保育所 保育士
もり ちみお
森本道雄 さん

今の職業を選んだ動機は？

すごくシンプルな理由ですが、子どもが好きだったからです。高校3年の夏ぐらいから考え始めました。高校は工業系でしたが、たとえばずっと一日中パソコンに向かってるのを毎日続けていくのは自分には合わないなど。自分が好きなことを仕事にした方がいいなと思いました。

保育士になるという選択、家族や友だちの反応は？

とくに誰とも相談しなかったのですが、両親は「好きにしたらいいよ」という感じでした。出身校の中ではたぶん男性初だと思えます。友だちは笑っていました。「冗談でしょ？」という感じで。

今の仕事をしていてよかったことは？

子どもたちが「今日楽しかった！」

と言って帰ったときに、とくによかったなと感じます。大きな行事では、一番成長を見られる卒園式の際にこの仕事でよかったなと思います。入って来たときは赤ちゃんだった子どもたちがキリッとして卒園していく姿には感動があります。

これからやってみたい保育は？

周りの先生は今日よりいいものをもとめて保育をされているので、私もがんばろうという意識が生じます。自分にはできないこともあると思うので、そういう特色は出していきたいと思えます。

例えば、担当している4、5歳児くらいになると、動きも活発になるので



新見保育所での森本さんの様子

ダイナミックな遊びができるようにドッジボールやサッカーを取り入れた保育を試みたいのです。
(森本さんの担当は4歳児19人。みどりずらん組の担任。)

自分らしく働く工夫は？

子どもの前に出るときは笑顔じゃないといけないので、そういう意味ですトレスを抱えながら仕事をするのは避けたいことです。私は好きなフットサルで県内の保育士だけのチームを作っていて、その中で仕事上の困ったことや情報交換などを行っています。好きなことをやってみようという工夫を軽減していくことが自分らしい工夫だと思っています。

編集後記

今回の特集インタビューでは新見で活躍されている3人の方に協力していただきました。

保育士は保母さん、つまり女性になるもの。消防士は男。自動車教習指導員のイメージは…。昔前ならば一般的にそれぞれ女性の仕事、男性の仕事とされてきました。つまり女らしい仕事、男らしい仕事といったところでしょっか。しかし、それらの「らしさ」は長い間に固まったイメージであり、それによって個人の職業、生き方が限定されるのはとてももったいないことだと思えます。一人ひとりが持っている個性や能力はそれぞれ違うものです。職業においても目標や希望を持ち、自分が輝ける世界に挑戦することによって「らしさ」はナンセンスかもしれません。3人の方は新見ではまだまだ特別な存在かもしれませんが、しかし、目標をもち、それぞれの仕事の現実世界に飛び込んでおられる3人のおみなさんを取り巻く周囲の環境は今のところ充分とは言えないかもしれませんが、みなさんの生き方が後の道をつくるのだと、つくづく感じます。そして、職場・家庭に「思いやり」という協力が次々と産声をあげるのを聞かえてくれるよつです。(編集委員 小川政保)

